



信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第35号】
発行人 小林 亨
事務局 長野市西長野6ノ口
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026)238-4370



これからの教育の創造を応援する同窓会に

同窓会長 小林 亨

令和二年春から世界中で流行している新型コロナウイルス感染症により、本年度の総会も不開催といたします。来年度以降の総会の開催方法について検討しつつ、ご意見・ご提案等ございましたら、事務局までご連絡ください。ご理解の程、よろしくお願いいたします。さて、世の中が大きく変わっています。対面で話をし、喜びや悲しみに包まれたとき手を取り、抱き合い、仲間と食事を楽しみ、大勢が集まって行事を行うという、これまで当たり前にしてきたことができません。行う場合はかなりの制限の下、相当の対策を講じています。

幼保・小中高・大学の教室においても地域の状況により、休校にしたり、リモート授業を行ったり、対面の話し合いや作業を控えたりしています。しかしながら、「乳児はしっかりと肌を離すな。幼児は肌を離せ、手を離すな。少年は手を離せ、目を離すな。青年は目を離せ、心を離すな」(アメリカインディアンの教え)の通り、子どもが育っていく過程では、接近、接触、まなざしは重要な要素です。誰が、どこで、どのように、接近、接触、まなざしを子どもたちに提供したり共有したりしていくのかを、みんなで考えていく必要がある

ります。大学の研究、各学校園の教育実践は、これからの教育の創造において、一層大切になります。同窓会は、そのような教育の創造を様々な面から応援していきたいと思えます。

第17期同窓会では①様々な情報共有のためのHPの一層の活用、②各地区、各科・コース、各世代等の活動の充実、③現役学生支援の充実を運営の方針としてきました。現状況下での総会や理事会の不開催・書面開催となり、①に大きく頼りました。同時に、本会が行っている内容を分かりやすく紹介するHPの構成や会報の記事の充実を図っています。③については、毎年学部50万円の補助(R2年度は図書館の整備費の一部となりました)、教員採用試験の模擬試験補助(一回一人1,000円。R2年度は112人)、困窮学生支援のための信州大学知の森基金へ拠出(R2年度は10万円)を行っています。会員の皆様への教育実践補助(一人1万円。R2年度は10人へ)も行っています。新たな状況をよい変化への機会とし、より身近で役に立つ同窓会、これからの教育の創造の一層の充実を応援する同窓会としていきたいと思います。

第十七期同窓会役員名簿

(令和元年八月～令和三年八月)

名誉会長	宮崎樹夫	顧問	佐野昌男	中田宣彦	三寺勝美
	玉川隆雄	町田修	深澤弘二		
	中澤寛	土屋聖史	宮本伸一		
会長	小林亨				
副会長	吉澤修一	中山久貴	西澤佳代		
監事	原田良介	山岸千賀子			
本部長	清水秀明	池上昭子	畔上一康		
	岩田靖	齊藤忠彦	小林比出代		
	茅野公穂	酒井英樹	伊藤冬樹		
	安達仁美	森下孟			
地区理事	下伊那	中原秀樹	上伊那	島尻英二	
	諏訪	柳平正司	木曾	池田信三	
	北安曇	木下政道	安曇野	宮澤浩	
	松本	坂口克夫	佐久	小林英明	
	上小	片桐芳之	更埴	田中寿一	
	上水内	小林重之			
	須坂上高井	松木智子			
	中野下高井	清水恒善			
	飯山下水内	吉澤秀			
	塩筑	下條寿嗣			
	長野	中村和雄	片山洋一		
	高校	富岡修			
	県外	井出良子	功刀道子		
幹事	和田裕	小池勲	宮尾弘子		
	茅野理恵	村田章子	瀧直也		
事務局	中村直人	新谷静香			



ご挨拶
教育学部副学部長 西 一夫

同窓会の会員の皆様におかれましては、日頃から
本学部・大学院の運営と学生の学修に対して種々ご
支援賜り、心より御礼申し上げます。本年度は学部
入学生246名、大学院生57名を迎えることができ
ました。昨年度は村松副学部長の挨拶にもありまし
たように、新型コロナウイルス感染症拡大のため入
学式を挙行することが適いませんでした。本年度は
規模を縮小しながらも式典を挙行し、さらに昨年度
の入学生に対しても濱田学長が教育学部キャンパス
を訪問して一年遅れの入学式を実施いたしました。
本年度は原則対面での授業実施が始まり、キャン
パスにも学生たちの楽しげな声が飛び交い、制限の
ある中でも学生たちはそれぞれの学びを深めている
ようです。キャンパスに学生がいることで本学の学
びの場が創られているのだと実感しています。昨年
一年間の窮屈な生活や学修を取り戻そうとするかの
ように、意欲的に授業に参加して友人たちとの交流
を楽しんでいるようでもあります。また、教員はオン
ライン授業の形態やクラウドを活用して授業を展開
する手法を手に入れることができ、これらを活用し
ながら対面授業においても積極的に授業改善を行っ
ております。昨年度実施できなかった附属学校園で
の教育実習を再開して「臨床の知」の実現を図って
います。学年を二グループに分割して1回の実習生
の数を減らして実習が行われています。特に四年生
は初めての教育実習が5月中旬から順次始まってお

り、2回目の実習は8月下旬から開始予定です。そ
の後10月から11月にかけて三年生の実習が組み立て
られています。

教職大学院は3つのプログラム制を取り入れて完
成年度を迎えます。院生個々の課題に対応したカリ
キュラムの成果が期待されます。併せて新設の総合
人文社会科学研究科心理学分野も完成年度を迎え、
その成果が鶴首されます。

加えて教職員支援機構の地域センターも県内での
活動が本格化しました。現職教員の研修機能の充実・
高度化を実現するための県教委との連携による研修
プログラムは、全国的にも注目される活動となりつ
つあります。

学部全体の活動は回復しつつありますが、まだ予
断を許さない状況は続きます。このような難局を打
破すべく教
職員が一致団
結して学生の
教育活動に
あたっており
ます。同窓会
の皆さまの教
育・研究に対
する変わらぬ
ご理解とご支
援を、これま
で以上に賜り
ますよう、お
願い申し上げ
ます。



一年遅れの入学式

学部の新転任・転退職教員の紹介

【令和2年～3年度新転任教員】

- 藤原 崇雅 先生(言語教育) 令和2年10月1日
- 向井 秀文 先生(教育学) 令和2年10月1日
- 佐久川憲児 先生(数学教育) 令和3年4月1日
- 植原 俊晴 先生(理科教育) 令和3年4月1日
- 小倉 光明 先生(技術教育) 令和3年4月1日
- 笠原 大弘 先生(教職大学院) 令和3年4月1日
- 宮下 昭夫 先生(教職大学院) 令和3年4月1日

【令和2年度転退職教員】

- 西 正明 先生(技術教育) 平成12年8月1日 着任、定年退職
- 池田 京子 先生(音楽教育) 平成8年4月1日 着任、定年退職
- 三條 俊彦 先生(スポーツ科学教育) 昭和55年4月16日 着任、定年退職
- 小松孝太郎 先生(数学教育) 平成22年4月1日 着任、退職
- 間島 秀徳 先生(美術教育) 平成27年4月1日 着任、退職
- 蛭田 直 先生(美術教育) 平成21年4月1日 着任、退職
- 鎌倉 大和 先生(教職大学院) 平成31年4月1日 着任、退職

(長野県との人事交流)

木下玲奈さんの短歌

歌会始に入選

せんせいと子らから呼ばれ振り返り実習生は先生となる

教育学部卒業生の木下玲奈さんの作品が、令和3年歌会始に入選しました。

応募総数13、657首の中から選ばれたのは10首だけという狭き門、その中の1首が木下さんのこの短歌です。

木下玲奈さん(平成31年3月卒業、飯田市在住)は、小学生の頃から祖母の瑤美子さんから手ほどきを受けながら短歌づくりを続けてきました(瑤美子さんも2015年に入選)。

3回目の応募で、見事入選を果たしたこの歌は、教育学部在学中の教育実習での経験を詠んだものです。教育学部で学んだ会員の皆様のご経験は、同じような経験をし、共感を覚えるのではないのでしょうか。

また、これから教職を目指す学生の方々に、「せんせい」と呼ばれることの意味の深さが伝わるのではないのでしょうか。

今年の歌会始の儀は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で約2ヶ月延期となり、3月26日に皇居「松の間」にて行われました。

天皇・皇后両陛下はじめ皇族の方々がご列席の中、独特な節回しで、厳かに朗詠される自分の歌を、静かに聞き入る木下さんの姿が印象的でした。

祖母の瑤美子さんと一緒に、今後一層短歌づくりを楽しまれることをお祈りいたします。



§ 木下さんからのメッセージ §

入選の知らせの電話をいただいたときは、全く現実味がなく信じられない気持ちでいっぱいでしたが、歌会始の儀が終わわり、周りの方々から祝福の言葉をかけて頂き、やっと実感がわいてきているところです。緊張もあつたのですが、式が行われた正殿「松の間」は、不思議と澄んだ空気が漂っており、自然と背筋が正されました。コロナ禍での開催となり、不安も多かったのですが、振り返ってみても参加できてよかったと思っ

ています。短歌は小学生のころからやっており、生活の一部となつていますが、やめることを考えた時期もありました。でももしあの時やめてしまつていたら、歌会始の儀に参加するという貴重な経験も出

令和元年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

歳入合計額 5,063,163円也 自 平成31年4月1日
歳出合計額 4,772,352円也 至 令和2年3月31日
差引残額 290,811円也 翌年度へ繰越

(歳入の部)

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	363,148	363,148	0	
2 会費	4,920,000	4,300,000	△ 620,000	215名入金(院1名)
3 雑収入	500	400,015	399,515	利子・運営積立金均40万円補填
歳入合計	5,283,648	5,063,163	△ 220,485	

(歳出の部)

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	410,000	369,367	40,633	総会・役員会等
2 事業費	1,430,000	1,151,183	278,817	会報・学部後援等
3 事務費	1,585,000	1,596,210	△ 11,210	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,586,000	1,562,000	24,000	雇用費等
5 雑費	150,000	93,592	56,408	連合会会費等
6 予備費	122,648	0	122,648	
歳出合計	5,283,648	4,772,352	511,296	

令和元年東日本台風被災校の記録と復旧までの道のり

長野市立七二会中学校校長 原 毅
(被災時は長野市立東北中学校教頭)

1. 被災校の記録をまとめるに至った経緯

令和元年の台風19号により、本校のように被災した学校や本校学区内の各小学校では、避難所となった小学校、被災した小学校の児童を受け入れて授業会場を提供した小学校がありました。災害時には、本校のように災害に遭う学校、避難所となる学校など、どの学校もそれぞれの立場になる可能性があります。

そこで、災害後の対応や取り組みの情報を共有することが大事であると考え、今後の災害時に備え、もし災害に遭ったとしても適切に対応ができるようにするために、本校学区内の各学校で被災後の対応や取り組みの記録をまとめることにしました。



体育館・テニスコート周辺 (2019/10/13夕方)



校庭の様子 (2019/10/13夕方)

<東北中学校の被災の記録>

被災状況	
①被災生徒	50名 (48家庭) 【全校生徒数528名】
②自宅外へ避難した生徒数	86名
③被災職員	1名
④校舎1階	床上浸水20cm～30cm浸水
⑤校長室、職員室、事務室、保健室等の管理棟1階および理科室、調理室、特別支援教室、木工室、金工室、生徒昇降口、体育倉庫、部室等が浸水、床に泥堆積。	
⑥水道、電気、ネット環境使用不可。	
⑦防火水槽に泥が混入し消火設備使用不可。	
学校再開までの経過	
①臨時休校期間…片付け・清掃作業・特別支援教室移動	令和元年10月16日(水)～10月30日(水)【10日間】
②生徒を対象にした連絡会を本校体育館にて実施	令和元年10月21日(月)…学校の被災状況等連絡を行った。
③自由登校期間…片付け作業・自主学習	令和元年10月28日(月)～10月30日(水)【3日間】
④全校生徒通常登校再開	令和元年10月31日(木)
	・各校舎2階以上で学校生活再開 ・土曜日に学生ボランティアによる学習支援実施
⑤復旧工事開始	令和2年3月13日(金)
⑥復旧工事終了	令和2年9月8日(火)

2. この災害を通して学んだこと・伝えたいこと

(1) 東北中学校災害対策本部を市教育委員会内に設置したこと
・長野市教育委員会内に本校の災害対策本部を設置して対応した。市教委のパソコンを借りし、情報発信が行えた。また、長野市の被災状況の情報が入りやすく対応を考えやすかった。

(2) 安否確認について
・校長と教頭で対応したが、対応する職員が数名いたほうがよかった。

(3) 情報発信をこまめに行うこと
・災害直後は、様々な情報が流れ生徒や保護者の不安が増大していった。学校の被災状況、復旧作業状況、学校再開の見通し等こまめに情報を発信することを心掛けた。

(4) 被災地域へ赴き、地域の方々と共に活動を行うこと
・被災した地域へ実際に赴き、地域の方々と共に片付け等の作業を行うことで、地域の状況や生徒の状況、今後の必要な支援について直接聞くことができ、情報発信にも役立った。

(5) 指示を守ること
・指示が徹底されず、浸水当日水が引いた後、校舎内に入った職員がいた。漏電等から自分の命を守ることや災害に乗じた窃盗等の不審者の侵入も考えられるため指示の徹底が大事。

(6) マスコミへの対応
・窓口を校長として対応したところ、大きな混乱もなくスムーズに復旧作業と取材対応が行えた。職員等への取材があった際も「取材は校長へお願いします」と返答することを徹底して対応した。

(7) 自衛隊の協力要請について
・被災ゴミの移動と撤去、校庭やテニスコートおよび体育館周辺、生徒昇降口前の消毒を行っていただいた。学校再開に向けての準備がスムーズに進められた。

(8) 重要書類の保管場所について
・耐火書庫の中に水が浸入することがわかった。重要書類はできる限り高い場所への保管が必要。浸水災害に備えて、できれば耐火書庫等も1階ではなく2階以上に置くことがよい。

(9) 衛生面の安全確認について
・学校薬剤師に常に相談をして対応を行った。適切なアドバイスを得て、学校再開に向けてや再開後も安心して学校生活を送ることにつながった。

(10) 被災ゴミの置き場所について

・地域の方から見える場所に学校の被災ゴミを置いておくと、被災ゴミ置き場と間違えられ、捨てに来る地域住民がいた。周辺から見えないように対処する必要がある。

(11) 役割分担を明確にする

・校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭、学年主任、生徒会係とそれぞれの役割分担をはっきりさせて復旧作業や外部との対応を行った。

(12) 生徒、職員の心身のケアについて

・スクールカウンセラーとの懇談がいつでもできるようにした。また、生徒への対応とともに、接し方等のアドバイスをいただいた。被災後も定期的にスクールカウンセラーとの懇談を実施し、生徒の心身の状態を把握した。

・平日の復旧復興作業時間も午前2時間、午後2時間と決め、それ以上の作業を行うことを止め、職員の心身の疲労が溜まらないように考慮した。

(13) 学びを止めない日常の準備

・臨時休校中に生徒連絡会にて、各教科の教科主任から家庭学習の内容及び学習の進め方等を説明することで、生徒は安心して家庭学習が進められた。
・学校再開後の土曜日の半日等、学生ボランティアによる学習支援を12回していただいた。

3. おわりに

今回の災害を経験して、大事だと思ったことに共通するのは、①情報の発信、②危機管理マニュアルの見直し、③学びを止めないための対策の3点です。今後は、今までに経験したことのないことが起こっても、この3点を忘れずに対応をしていきたいと思っています。

学びを止めない

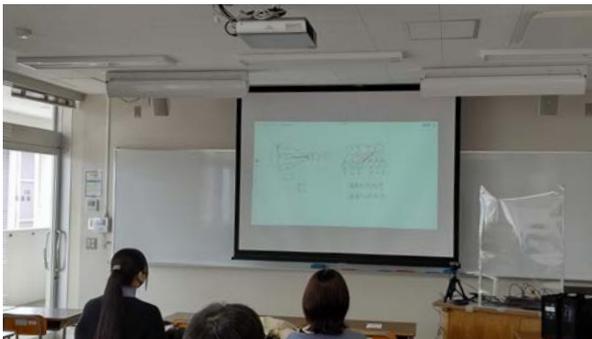
教育学部でのオンライン授業の展開

附属次世代型学び研究開発センター長 村松 浩幸

コロナ禍は未だ出口が見通せず、各所ご苦労をされているかと思えます。この度、本学部でのオンライン授業についての紹介依頼をいただきました。令和2年度の前期までの様子は、同窓会報第34号での挨拶記事として概略紹介をさせていただきました。ここではその後の様子を紹介させていただきます。

昨年度、附属次世代型学び研究開発センター(通称、学びセンター)が中心となり、他学部に先駆けてオンライン授業を展開できました。後期も前期の成果を踏まえつつ、原則対面という文科省方針もあり、少しずつ対面を増やしてきました。その一方で、新たな流れとして出てきたのが、ハイフレックス型授業です。

要は対面の授業と同時に、テレビ会議によるオンラインも並行して実施するという授業形態です。当然両方なので先生方の負荷は高くなります。しかし、学生らにより良い授業を提供しようと、こうしたハイフレックス型授業に積極的



ハイフレックスの授業風景 (島田英昭教授提供)

に取り組み出された先生方も複数おられます。同授業の研修会を学びセンターで実施したところ、多くの先生方にご参加いただきました。リアルとオンラインの良さをそれぞれ活かすべく、新しい挑戦に取り組んでおられます。

こうした先生

方の取り組みの成果を、学びセンター紀要に論文投稿いただき、昨年は優れた論文の表彰を行いました。特に実技や演習が必要な授業の中においても、オンラインの中で様々な工夫されている先生方の取り組みに、私自身も学ばせていただきました。これら成果はWebで公開しております。また、学部のみならず、小中学校で展開されているGIGAスクールについても、学生への関連教育の充実とともに、社会貢献として、様々対応や展開をしております。コロナ禍を契機に、本学部のみならず、各学校においても新しい学びが展開されるように今後も進めてまいります。



ハイフレックス授業時の教卓 (島田英昭教授提供)

学びセンター Web

<https://crii-shinshu-u.info/>

教育実践補助事業

教育実践補助事業のご案内

平成15年度より実施しています同窓会研究補助事業は、令和元年度より、名称を教育実践補助事業に改め、継続して実施しております。その概要についてお知らせします。

本事業の趣旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有し合うことに置かれています。対象者は教育学部同窓会員(同窓会費納入者)で、応募者一律に1万円を補助しています。

応募希望者は、所定の様式「教育実践補助願及び教育実践概要」にしたがって、同窓会事務局(〒380-1854長野市西長野6-10)にお申し込みください。できるだけ当該年度の11月末日までに申し込んでください。応募規定の詳細、応募様式等の内容は、同窓会Webサイトをご覧ください。なお、当該年度の教育実践補助は先着10名となっております。受付可能かどうかを確認しますので、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせください。

「解釈」の多様性を実感する

J-POPの歌詞を読み解こう

文化学園長野中学・高等学校 栗原 賢

私は去年信州大学を卒業し、教員生活は今年度で二年目に入った。勤務校は私立高校で、進路も特性も実に多様な生徒たちが学校生活を送っている。昨年度は高校二年生の現代文Bを担当していた

が、評論文の読みの授業において、筆者の主張を読み取るのみに終始してしまい、表層的な理解に留まってしまおうという課題を抱いた。そこで本実践では、外山滋比古「解釈」という評論文を学習した後、その「解釈」の多様性を実感してもらうために、J-POPの歌詞を様々な視点から読み解いていく授業を構想した。

まず授業冒頭では、「読み手の考えが影響し、同じテキストでも十人十色の解釈になる」など、これまで学習してきた「解釈」の内容を確認した。次に「J-POPの歌詞を様々な視点から解釈しよう」という目標を立て、電子大型モニターを用いてバックナンバーの「ハッピーエンド」という曲を視聴した。本授業での主たる活動としては、「歌詞中の『私』はどのような性格か」と「結局『私』にとってハッピーエンドで終わったのか」の二つを設定した。

特に生徒たちが「解釈」の多様性を実感できたのは前者の「私」の性格を考える「活動」である。例えば、「私」を「重たい」性格だと考える生徒もいれば、「一途」だと考える生徒もおり、同じ「恋愛に対して一直線である」という意味でもネガティブな言葉で表現するかポジティブな言葉で表現するかで、そこに解釈者の主観が介在していることを実感している様子が見られた。コロナ禍であったためグループワーク等は自粛しており、全体共有のみであったが、それでも他の生徒の考えに真剣に耳を傾けていた。

評論文の内容は抽象的で、生徒たちは内容を読み取れても自分とは関係



令和2年度教育実践補助交付者

氏名	勤務校・在籍校等	教育実践課題
1 中村 和雄	長野市立若穂中学校	子どもが生きる世界を実現する学校経営
2 坂口 克夫	松本市立今井小学校	生活科・総合的な学習の時間における教師の学び
3 神谷 充	飯綱町立三水小学校	用水の探検を通して
4 久保 知史	根羽村立義務教育学校根羽学園	SDGsの目標から考えた主体的・探究的な学びの創造
5 片山 洋一	長野市立安茂里小学校	地域と連携し、体力向上を図るためのサーキット場を設営する取組
6 岡野 啓	茅野市立永明小学校	国語科における伝えあい学習を他教科につなげていく
7 寺平 有希	長野市立松代中学校	「主体的に学習に取り組む態度」に焦点をあてた授業改善(音楽科)
8 泉 継道	長野市立七二会小学校	プログラミングを子どもたちの身近な学習と繋げるためには、どのような支援が必要か
9 中嶋廣多郎	塩尻市立片丘小学校	地域の人やもの、ことと関わり合いながら自分の住む里に対する考え方を見つめ直す総合的な学習の時間の在り方
10 栗原 賢	文化学園長野中学・高等学校	詩への興味関心を喚起させる国語科授業 ～back number「ハッピーエンド」の歌詞を素材に～

ない遠い世界の話だと感じてしまうことも多いだろう。それをいかに自分の身の回りに引き付けて考えられるかが重要である。今後ともそのための仕掛けを施していくと同時に、少しずつ生徒自身で考えられる力を身につけさせていきたい。

卒業・修了生の就職状況

就職部長 齊藤 忠彦

教育学部の就職支援活動に對しまして、教育学部同窓会の皆様には日頃より多大なご支援を賜り、心より感謝いたします。令和2年度教育学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況が下表のとおりになります。

学部卒業生については、進学者を除く就職率は92.95%、教員就職率は65.2%で、前年度(令和元年度)と比較すると就職率は3.14ポイント減、教員就職率は1.72ポイント増となりました。令和2年度の就職については、新型コロナウイルス感染症の影響が心配されましたが、本学部においては、それほど大きな影響はなかったと考えられます。なお、教員となった148名のうち、正規採用者は97名で、臨時採用者は51名です。

令和4年度長野県公立学校教員採用試験の一次選考は、令和3年7月10日(土)・11日(日)に実施されます。採用数は小学校教諭225名程度、中学校教諭135名程度、養護教諭20名程度、特別支援学校55名程度、高等学校90名程度で、前年度とほぼ同じです。

就職部会では、教員採用試験に向けて、模擬集団面接の実施、模擬個人面接の実施、模擬試験及び対策講座等を計画しております。今年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じ、いずれもオンラインまたはオンデマンドで配信の予定です。

今後とも皆様からの忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただきますとともに、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度 卒業生 就職状況

Table with columns for '就職・進学者' (Employment/Advanced Students) and '就 職 者' (Employees), categorized by '学部大別' (Faculty/University) and '学校教員養成課程' (Teacher Training Course). It includes sub-categories like '校内' (In-campus) and '校外' (Out-campus) with further breakdowns by school type and gender. Total counts are provided at the bottom.

(注) ()は臨採で内数、○は外国人留学生で内数 9月卒業含む

就職率(学部)(進学者を除く) 92.95% 令和元年度 96.09%
教員就職率(学部)(進学者を除く) 65.20% 63.48%
教員就職率(学部)(卒業生に対する) 58.04% 57.71%

お知らせ

第34回通常総会も中止といたします

本年8月11日(水)に計画していました第34回通常総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、昨年に引き続き中止といたします。

5月29日(土)に行った理事会にて、現在の感染状況を踏まえ検討した結果、「中止もやむなし」との結論となり、全会一致で決定いたしました。

昨年、本年と2年連続での中止は、誠に残念ですが、やむを得ない情勢の中、会員の皆様には、何とぞご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、理事会において、令和2年度事業報告並びに決算報告、令和3年度事業計画案、予算案、第18期役員の改選についても、賛成多数で承認していただきました。

これらの議案につきましても、本来総会で承認いただかなければならないわけですが、昨年同様、理事会での承認でそれに代えさせていただくことをお認めいただきたくお願い申し上げます。

なお、通常総会での審議を予定していました議案書につきましては、同窓会ホームページに掲載いたしますので、ご覧いただき、ご質問、ご意見等は、事務局へお届けいただきますようお願いいたします。次の総会は、令和4年8月11日に「第35回」として開催する予定です。

新型コロナウイルス感染症の流行が一日も早く終息し、第35回通常総会が是非とも開催できることを願うとともに、会員の皆様もこの困難な状況を無事乗り越えられることをお祈りいたします。

教育学部図書館の改修

教育学部図書館は昭和45年2月に竣工され、約50年が経過していました。建物が老朽化し、雨漏りやカビの発生等の設備面の問題や、ICT機器を用いた協働学習スペースの不足等の問題を抱えていました。そこで、平成27年度より学部内で検討が始まり、予算要求を行ってきました。令和2年度より工事がはじまり、令和3年10月に開館予定です。改修にあたり、同窓会からの寄付が有効活用されています。



改修後の外観

改修前の外観



一階のエントランス

図書館カウンターと事務室

2階の大講義室

書架の位置に合わせたLEDのライン照明設置

窓サッシの交換・網戸の設置

事務局より

○同総会ホームページをご覧ください
事務局の紹介や同窓会報のバックナンバー等を閲覧することができます。信州大学教育学部 同窓会で検索または、以下のURLを指定ください。
<http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/>

○教育実践補助受付中

教育実践補助申請を4月より受け付けています。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の6ページ「教育実践補助事業」の欄をご覧ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届けを事務局宛てにお願いいたします。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いにご注意ください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振込手数料等がかかりますので全額返金はできません。

○「支部、卒業学科・コース等の同窓会活動支援事業」への申請を受け付けています

一昨年度から、「支部、卒業学科・コース等の同窓会活動支援事業」を進めています。この事業は、会員にとってさらに魅力的な同窓会づくりの一環としての事業です。

それぞれの地区ごとや、卒業学科・コース等の同窓会活動を支援することとで、同窓会活動への関心を高め、会員相互の連帯を一層高めることを目的とし、その活動に対して、若干の資金を補助するというものです。詳しくは、同窓会ホームページ「お知らせ」の中の令和元年9月27日の記事をご覧ください。申請書、報告書のダウンロードもできますので、利用してください。

事務局連絡先
電話 026-238-4370
月・水・金 9:30 ~ 16:00
HP <http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/>
Email kdousou@shinshu-u.ac.jp